

地場工業デザイン高度化特定事業

## 「木製屋外施設のデザイン開発」

北海道林産技術普及協会が、昭和61年度地場工業デザイン高度化特定事業費補助を受け、進めていた「木製屋外施設のデザイン開発」が終了しましたので報告します。

地場工業デザイン高度化特定事業とは、組合等が地域中小企業の振興に寄与するため、市場の動向等に即したデザイン開発力の強化を図る事業に対して事業費を補助してもらえるものです。

本道の林業においては、カラマツ、トドマツ人工林から産出する小径木の用途開発が強く望まれており、林産業においては住宅着工数、木造率の低下により、経営環境は厳しい状況にあります。小径木、針葉樹製材等の需要拡大をはかるために消費者ニーズに直結する新しい商品の創出が必要です。

一方、木材や木製品に対する関心は年を追って高くなってきており、木のクラフトや木製家具に始まった木のムードの高まりは最近フェンス、ベンチ、ログハウス、遊具等へ広がりつつあります。

このような背景のもとに、小径木を加工した円柱材、針葉樹製材等を用いた新しい商品一屋外施設の開発が試みられています。この種の商品開発は素材の持つ強さ、感触と共に用途にマッチした機能的、美的デザインが重要な要素となります。

しかし、木材産業では一部の工芸、家具業界を除いて、デザイン開発能力が不足しています。

このようなことから、当協会は、デザイン開発、バイロットデザインの試作、試作品の評価、検討を通じて、木製屋外施設のデザインの高度化を図るとともに、企業経営者や若手スタッフのデザイン開発プロセスに対する理解を深めていただこうと、昭和61年度の補助金の交付を受け、「木製屋外施設のデザイン開発」事業を実施しました。

事業費は4,166千円でうち道費補助額2,666千円、協会負担額1,500千円でした。

事業では、開発委員会を設置してデザイン開発の基本方針を決定し、専門家にデザインを委嘱、その報告書にもとづいて試作を行い、消費者ニーズの把握と新製品の普及の一助とするため道庁ロ

ビーで展示公開を行いました。

開発委員会は次の方々で構成されました。

委 員 長 大矢二郎（北海道東海大学教授）

委 員 布村昭夫（北海道東海大学教授）

〃 鈴木通夫（丸善木材株式会社社長）

〃 大熊礼治（厚浜木材加工協同組合顧問）

〃 小野寺重男（北海道林産技術普及協会常任理事）

アドバイザー 伊藤勝彦（北海道立林産試験場主任研究員）

〃 丸山 武（北海道立林産試験場加工科長）

デザインはつぎの方々に委託しました。

三上 純（北海道東海大学助教授）

大野仰一（北海道東海大学助教授）

木製屋外施設のデザイン開発はつぎのような概念にもとづいて行われました。

木製屋外施設物は、ともすれば施設物単体が論議され、デザインされ、周辺環境を無視して唐突に置かれたり、販売されたりしてしまいます。

この事業では、木製屋外施設が設置されることにより、周辺環境に時間とともになじませ、付加価値を与える、全体の環境の価値が高まるという観点に立ったデザイン開発なのです。木製屋外施設単体のデザインは、環境のデザインそのものであり、環境のエレメントがトータルなデザインポリシを持つ。そのため、それぞれの地域や土地の環境を「読み込む」作業が第1であり、デザインされた木製屋外施設は、それぞれの地域で、さらに展開する手法を独自に探る必要があります。

デザインの内容はつぎのとおりです。

I. ログキャビンに関するもの

1. ログキャビン・バンガロー村計画

2. レジャー・ライフパッケージ計画

II. ストリートファニチャーに関するもの

1. 単体としてのストリートファニチャー

2. 環境システムとしてのストリートファニチャー

なお、本事業の報告書をご希望の方は協会へご連絡下さい。道庁ロビーで展示公開した試作品を以下に写真で紹介します。

「木製屋外施設のデザイン開発」

## 展示成果品



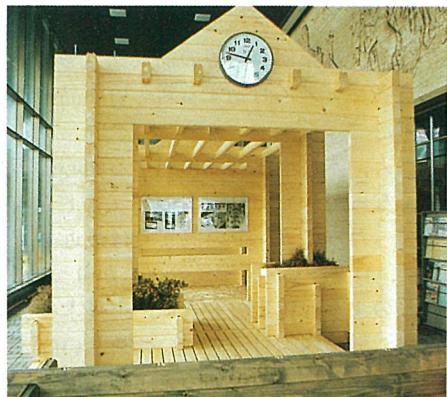
ログモール



ログウォール



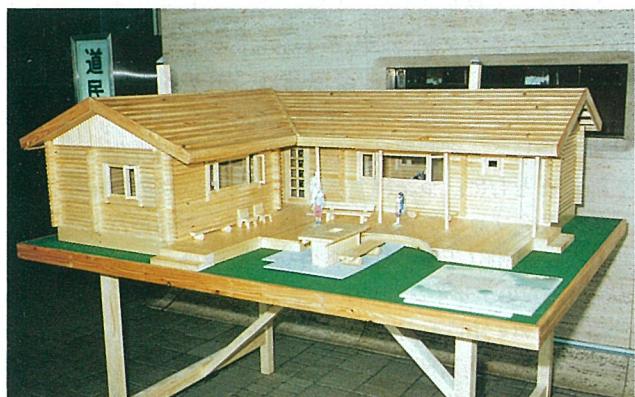
キッチンカウンター（ログキャビン用）



ログモール



レジャーパッケージ



ログキャビン(模型)

成果品は林産試験場構内に設置します。 (北海道林産技術普及協会)